

No.250

平成18年 4月

波紋



PUBUSHER: 森松株式会社
EDITOR: 梅田文康

2006 April

おかげ様で「波紋」発行



250号!!

57号 (新社屋建設進行中) 101号 (第一回森松展) 153号 (中高ビ若手会スキー) 228号 (第一回BDPフェア)

モーリンググループ社内報「波紋」が今回で250号を迎えることができました。

1985年7月の創刊号からはじまり20年9ヶ月という長い年月にわたり発行し続けてこれたのも、モーリンググループを取り巻く、得意先様、仕入先様のご支援あってのことです。

今後も、皆様に愛され続ける紙面作りができるように編集委員3人、力を合せてがんばってまいります!

編集委員一同

波紋250号おめでとうございます。本当にすばらしい一言です。ひとえに歴代の編集長、編集委員の皆様の努力のおかげですね。

なんと創刊から20年を越えるとのことですが、20年も過ぎると時代は大きく変わるもので、当時は原稿用紙で入稿された物をワープロ入力して...でしたが、今は文章から画像までメールでの入稿ですからね。本当に森松の歴史が刻まれた社内報であり広報であり社史ですね。これからも大切に継続していきましょう。

波紋初代編集長 牧野光昌

『イタリア所感』

社長 森 直樹



三年に一度のプラスチック展示会、PLAST 2006へ行ってきました。前回の2003年に引き続きの見学です。イタリアのミラノで開催のこの展示会、イタリアといっても工業都市のミラノは世間一般のどかなイタリアのイメージと違い、東京やNYと変わらぬ印象です。当然イタリア企業をはじめとするヨーロッパのプラスチック関連企業が中心の展示ですが、機械のデザインへのこだわりは半端ではありません。(フェラーリさながらの真つ赤な筐体の機械等) また展ブースの見せ方も日本とは異なり、それぞれに個性を感じます。(いくつかの展示会ネタとしてたくさん写真に収めさせてもらいましたが) また、日系メーカーへも納入している破砕機製造会社を訪問、世界各国に顧客を持つ中小企業の姿は独自のノウハウを持つ会社の強さを感じました。

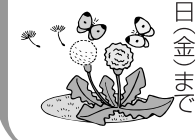
調べてみたところ、イタリア中小企業の生き残り策のひとつとして、自社で企画・設計のみを行い、部品を外部から調達することによって、適正な企業規模を保ちつつ、経済変動の影響を最小限にすること。確かに訪問した会社も大きく分けると、コンピューターを何台も並べた設計室と、組み立て工場で構成されておりました。そしてこれら中小企業は、ニッチ市場を獲得するためのノウハウや技術開発により成り立っており、国際化と時代の変化の早い昨今、小回りの聞く中小企業だからこそ、このような形で効率よく収益を出していく選択もあるというところでしょう。その対極として、中国国内の文具製造業ではかなりの部分を内制化しております。環境によって、成り立つ企業の形態も変わるといってしまってもいいでしょう。企業のあり方を改めて考えさせられた今回の訪問でした。

※尚、写真は(4-B)に掲載しました。

naoki@morimatsu.net

2006年 4月の予定

29日 (土)	みどりの日
26日 (水)	上海フーズ展
23日 (日)	社長上海視察
22日 (土)	生産会議 11時30分〜
19日 (水)	南署防犯協会理事会
15日 (土)	森 ちかさん誕生日
14日 (金)	伊東郁一さん誕生日
12日 (水)	土田義紀さん誕生日
11日 (火)	新入社員研修会(11日・12日) 呉さん王さん 10時〜16時
4日 (火)	東名古屋CCC組合「ゴルフ」 5S勉強会「清掃」
1日 (土)	第二土曜日休み



PLAST 2006 in ITALY



『250号を迎えて』

梅田文康 (丸善工房・サークル)



今号で「波紋」は発行250号を迎えました。このような長い歴史の中で、記念すべき号を編集長として迎えられる事を嬉しく思います。

私自身、入社2年目に11代目の編集長として就任して依頼、約4年間で発行号数は46号を数えました。250号を歴代編集長の人数で割ると、一人あたり就任期間は約23号分になるので、歴代編集長の中でも随分長く就任していることになりました。

行事がある時はカメラ係、行事が無い時はネタ探し、また、毎月締め日と重なる発行日前は慌しくなり大変だと感じることもあります。

しかし、その分「波紋」ができあがった時の喜びは人一倍感じることが出来ます。号を重ねることに「波紋」に対する思い入れも強くなってきました。今は、自分のイメージどおりの紙面にいかに近づけられるかが、毎月の楽しみにもなっています。

また、現在の波紋編集委員は過去最少人員の3人ですが、松井さん、小坂さんともにしっかりとサポートしてくれているので、とてもやりやすい環境です。

これからも3人で協力して、皆さんの良い情報源になるような紙面作りを目指していきたいと思えます。

パートさんコーナー

「ジャム作り」

私の家では朝食はコーヒーとパンです。毎日いろいろなジャムを楽しんでいます。

美味しいジャムは値段が高い。それならば自分で作ろうと、軽い気持ちで苺ジャムに挑戦したら思いのほか美味しくでき、作り続けて9年目になります。

今は作る量も一年分。苺のへたを取るだけでも大変です。ずーっとかき混ぜて煮詰め、砂糖を入れてからは少しでも手を休めると焦げてしまう鍋底のご機嫌を伺いながら3日間ただひたすら煮詰めるのです。家中が匂い、鼻にまとわりついて離れない。どこでも一緒なんです。

ジャム用の木のしゃもじは先が少しカーブしていましたが、鍋底にピッタリと合い、手で握

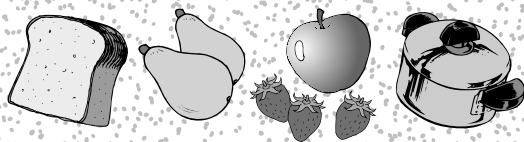
橋本留美子(製造部)



るところ以外はエンジ色に染まり…大切に使っています。

そんなこんなで、できた苺ジャムは我が家の味。種類も増えて、梅、りんご、いちじく、ラフランス、柚子、パパイアと、時期の果物をジャムにして冷凍しています。

これからもいろいろなジャムを、楽しみながら作ろうと思っています。



『土佐犬(闘犬)』

土佐犬は、一見怖そうに見えますが、本来は大変おとなしい犬で子供が背中に乗っても怒らないほどです。

以前、土佐犬を二匹飼っていました。多い時で四匹もいました。散歩は、朝夜一時間半していました。餌は、朝夜二回、洗面器一杯の餌を軽く食べます。

月に一回闘犬の大会があり、毎回闘犬に出していました。闘犬のルールは、制限時間は30分、勝敗が決まるのは、吠えたり、泣いたり、逃げたり、おしっこを漏らしたり、飼い主の判断によってタオルを投げ入れるなどの行為があった場合負けです。両方の犬が30分以上(泣いたり、吠えたりしない)戦うと引き分けとなります。犬にとって闘犬は、スポーツのようなものですね。人間で言う格闘技です。大会には、獣医も来ており戦い終わった犬の傷の手当ても速やかに行われます。なかには、耳がちぎれた犬、片目が潰れて見えない犬もいます。勝つ犬、負ける犬は飼い主の性格に出ます。

大橋康成(ウルトラセブン・サークル)



『スポーツの年』

黒松康郎(マルサン工房・サークル)



スポーツというのは見ていて感動する。今年はトリノオリンピックがあり、野球のWBCがあり、サッカーのワールドカップもある。すごく楽しみである。私が子供のころは、長島、王、青木、尾崎、サッカーは釜本なんというのが憧れであったのかな。

現在では、松井、イチロー、宮里藍、福原愛、サッカーでは中村、中田、トリノ金メダリスト荒川静香などが憧れのかな。昔と違いそれだけ世界で活躍しないとかなかなか全国区になれないのかなという気がする。世界での活躍をテレビでライブ放送したり、インターネットなどの波及も大きいのかな。世界が身近になったし、相撲や柔道など日本から生まれたスポーツではなく、海外から入ってきたスポーツで活躍できる実力がついてきているのかなと思う。相撲などは逆に海外の人たちが日本を占拠していますが、最近では韓国の躍進が見えるし、中国など人口の多い国にもっと優秀な人材が埋もれているように感じる。

日本も子供のころからの人材育成などとして、体操や水泳などオリンピックの場での活躍が見られるようになってきた。ただ何か間違っていないのかなと思う事も多い。子供のころから遊んでいた事の延長でトップに上っていく事がなくなっていると思う。日曜日など公園で遊んでいる子供が本当にいないように感じる。そこには場所の問題、治安の問題などが絡むのかも知れない。そして任天堂のDSが完売状態、ゲームの世界で松井、イチローと対決する。ゲームの世界で活躍している子供たちが増えたのかな。

『スポーツの春』

吉岡孝記(ライトSTAFF・サークル)



トリノ冬季オリンピックも終わりましたが、残念ながら荒川静香さんの金メダル1個に終わりましたが、すばらしい演技に目を奪われるばかりでした。

小さい子供がイナバウワーの真似をするところを良く見かける用になりました。スケートをした事も無い私にとっては何であんなに飛んだり回ったり良く目が回らないなど感心するばかりですが、あんなプレッシャーのなかで一度もミスなく演技をできる事が信じがたいことです。

自分の演技の前に滑った人の演技を見ずに自分の演技だけに集中したそう、ライバルの演技を見てしまうと良く見せようとか欲が出てしまうといっていました。何事もカッコつけず、人よりよく見せようとかではなくて今迄やって来た事を忠実にまた、自分を信じていることが大事かなと感じました。次はWBCプロ野球国別対抗戦や、ワールドカップサッカーと盛りだくさんでテレビに釘付けになりそうです。手に汗握るばかりでなく、ちよつとジョギングでもしようかなあ。

『花粉症』

大和田夕美(ウルトラセブン・サークル)



天気も良くなり、春の到来を感じる季節となりました。新しい門出で心機一転!!と新生活を迎える方が多い時期でもあります。しかし花粉症の私には、憂鬱な季節となりました。

昨年は花粉症がひどくて、蓄膿になってしまい、何度病院に通ったか…。この時期の耳鼻科は2時間待ちでも当たり前になっているんです。

今年は、昨年の大ブレイクに比べて、かなり少なめという予報が大半ですが花粉症の私には、少なくとも花粉があるということが大きな問題です。

先月までの風邪でマスク姿、今は花粉対策でマスク姿の通勤をしています。知り合いの方からは「水で鼻の中を洗ってきなよ」とか言われましたがそんな事、私には出来ません。花粉を避けながら頑張っていこうと思います。

